

JSOG Newsletter

Reason for your choice

No.1
JANUARY
2008

わたしたちの医療は“新しい生命”を生み出すためのものです。ひとつでも多くの生命の誕生のために。すべての女性のために。いま、わたしたちができることを...

社団法人 日本産科婦人科学会
JAPAN SOCIETY OF OBSTETRICS AND GYNECOLOGY



誕生 新しい命が生まれる輝かしい瞬間 「おめでとう」と「言える医療

新しく生まれる生命と、その母体となる女性を支え、人生におけるもっとも輝かしい瞬間を笑顔で迎えられるように全力でサポートする。それが産婦人科医の仕事です。産婦人科医は生まれてくる赤ちゃんや女性の体を守るため、様々な努力と研究を重ねてきました。これまでに、たくさんの命を救ってききました。救えなかった命に、涙を流したこともありました。しかし、そういった悲しみを乗り越えながら、こどもを望む、すべての夫婦のため、新たな命を救うため、すべての女性を助けるため、後に続く若者達のため、産婦人科の医師達は、日々活躍しています。

一日の外来患者、1800人を誇る埼玉医科大学総合医療センター。この大きな病院で誰よりも忙しく動き回る若き産婦人科医の姿があります。医師となつて5年目、大原医師。人望も厚く、将来を期待されている若手医師の一人です。右も左もわからなかった研修医時代を経て、難しい手術もこなせるようになってきたある日の深夜。**午前3時20分。**病院に一人の妊婦さんが運び込まれました。この日当直だった大原医師は、救急外来へ向かいます。患者さんは、妊娠36週の初産婦です。過去に子宮筋腫の核出術を受けており、痛み部位に、子宮破裂が切迫していると判断しました。

手術室に入っている間、午前3時40分帝王切開術が始まりました。手術は難しく、大原医師は指導医のアドバイスのもと、慎重に癒着の剥離、膀胱の剥離、子宮筋層の切開をすすめていきます。母体と胎児の二つの命を守らなければならない、そのプレッシャーが、大原医師を襲います。**輝かしい瞬間。**手術開始から40分が経過した頃、大きな泣き声が室内に響き渡りました。お母さんと赤ちゃんの初めての対面、母親の顔には、確かな喜びが見られます。赤ちゃんは無事生まれましたが、まだこれから子宮筋層の縫合、止血処置、残った癒着の剥離を行わなければなりません。まだ手術中ですが初めての授乳が、もう始まります。大原医師は、赤ちゃんが元気なことを確認すると、まるで励まされたかのように手術操作を続けました。そして、開始から1時間40分、ついに手術が終了しました。母子ともに健康。



大原 健医師 プロフィール

埼玉医科大学総合医療センター勤務、卒後5年目
趣味：テニス、旅行
二児の父

「よく何もできなくて同期の研修医が集まって泣いたことを覚えてます。始めは自分が出来ないことわからないことばかりで、もうストレス。そういうのを繰り返して：なんとかこころまで来ました。」翌朝、大原医師には再び病院の一日が始まります。大原医師は産婦人科の仕事に対するやりがいを、こう話しています。「幅が広いので手術もありませんし、お産もとりまですし、症例がかなり多彩です。当然妊婦さんはいろんな合併症を持っていますので、内科的な知識もある程度は必要となります。お産に関しては生命の誕生というか、やりがいは、かなりあると思います。」

大原医師から、みなさんへのメッセージです。

「本当に今、毎日が忙しくて、その日一日一日をこなしていくだけで、僕らの力では、それが精一杯なんですけど、でも今思うと5年間やっていて、ああ、無駄じゃなかったんだなって、思います。」

一人前にはまだ程遠いですが、子ども、それに近くなれたら、夢が持てたらいいなと思います。まず産婦人科に関して、本当にいろいろなことが

できますし、いろんな症例をみることもできます。当然人手も、最近よく言われていますけど、人手不足なので、かなりの症例、多くの症例が僕達若手に回ってくるんですね。ちゃんと真面目にやれば、やっただけ絶対身につきますし、辛かった分だけ、損はないと思います。だから何事にも逃げないで、がんばってやってください。」

産婦人科学は生殖医学、周産期医学、婦人科腫瘍学、さらには女性のプライマリケアのそれぞれの専門分化が推奨されているほどその範囲は広く、女性の生涯を通じてその健康に奉仕する女性医学としての性格を有するようになってきています。それに伴い、産婦人科の臨床のみならず基礎研究も大きな変貌を遂げています。生殖補助医療や内視鏡外科の進歩に加えて、遺伝子診断や遺伝子治療、さらには再生医学の進歩に大きな期待が寄せられるようになってきています。またヒト胚性幹細胞樹立のためのクローン技術の応用や遺伝子導入など、先進的な基礎研究にも若い産婦人科医の力が必要とされる時代になっていきます。

今、人生の岐路に立つきみへ。

医療、とくにここ数年間の周産期医療の進歩は目に見え、世界最高水準の医療が国民に提供できるようになってきています。元より周産期医療といえば、その医療サービスの受益者は妊婦や新生児というよう明日の社会であります。産婦人科医は women's medicine の担い手としてのアイデンティティを持つべきであり、次世代のヒトの健康管理も任されており、その役割と責任は大変重いものです。皆さんのような若い力を結集し、皆さんが希望を持てるような学会を皆さんとともに作っていきたく考えています。



社団法人 日本産科婦人科学会
理事長 吉村泰典



[DVD] ともに夢を語ろう！

一産婦人科の未来を拓くためー大原医師のドキュメンタリーを含む、産科婦人科医を目指すための、すべてが凝縮された作品です。これを見れば、あなたの進む道が見つかるはず。視聴をご希望の方は、所属施設の産科婦人科担当、もしくは日本産科婦人科学会事務局にお問い合わせください。

